



インスタレーション×火災予防 ～ 春の防火防災ラボ ～



宮城県 仙台市消防局

事例類型 IV 他団体との連携 / VI 広報活動 / VIII その他

取組期間 令和2年9月から

背景

新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで実施してきた火災予防広報ができない状況の中、幅広い世代に火災予防に興味を持ってもらうため、三密を避けた火災予防啓発の一環として、インスタレーション(※)という幅広い層に啓発効果が高いツールを使用し、より多くの市民の目に触れることで地域全体の防火意識の向上を図った。宮城大学と連携することで、学生の若い感性を取り入れ、より効果的な啓発を実現するとともに、学生の防火意識とキャリアイメージの醸成につなげることを目指した。

※「インスタレーション」とはある特定の屋内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し、変化・異化させ、場所や空間全体を作品として体験させる芸術。

内容

太白消防署職員と学生が連携して、「消防」「火災予防」をテーマにした防火防災に関するインスタレーション作品の展示披露及び体験会を実施した。

1 デジタルアート作品の制作

大学のカリキュラムにおいて、消防の「警防」「救助」「救急」「予防」の分野の基礎的知識、火災予防についての課題等を消防職員がレクチャーした。また、定期的な学生からのプレゼンテーションに対するディスカッションや消防署での消防体験等をととして、防火防災についての知識を深め、火災予防をテーマにしたデジタルアート作品を制作した。



宮城大学での講義



学生からのプレゼン



消防体験

2 学生自らがインスタレーションの展示披露及び体験会を実施

太白区の大規模商業施設において、5つのデジタルアート作品でインスタレーションの展示を行い、防火防災知識を学習した学生自らが来客の対応等に当たった。



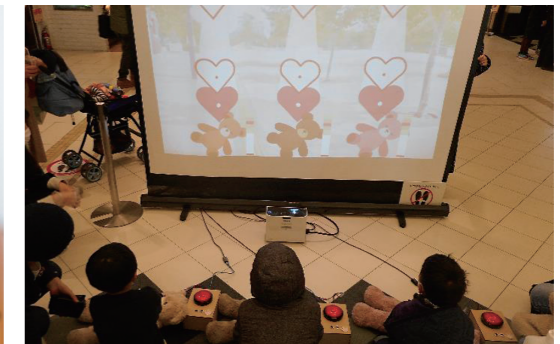
(消火器アート)
赤外線センサーによるバーチャル消火体験。



(VRで火の用心)
仮想空間での消火体験



(AR火災危険を探せ)
疑似居住空間にタブレットをかざすことで
火災危険に関するクイズに答えるゲーム。



(救命くまびと)
救急救命の手順を学ぶリズムゲーム。

成果

完成した作品を大型商業施設の多くの人の目に触れる場所に展示することで、広く火災予防意識の啓発を行うことができた。

また、コロナ禍における火災予防啓発の一環として、イベント開催前にSNS等における広報にも重点をおいた。開催時期を火災予防運動実施期間に合わせることで、関係する産学官がそれぞれSNS等で発信することにより、より発信力の強い広報、幅広い世代への広報が可能となった。

当消防局において、デジタル作品を使ったインスタレーションでの火災予防啓発は初の試みであり、宮城大学の学生チームそれぞれの独自のアイデアが詰まった作品を生み出した。今後事業を継続することで、新たな予防広報に繋がる事業である。

また、大学生の防火意識と今後のキャリアイメージの醸成にも影響を与える事業だと考える。



【宮城大学における広報の一例】

特記事項

今回の5作品でのイベント実績が学生に好評であったため、令和3年度はさらに多くの学生が参加し、9作品を披露することができた。令和4年度も宮城大学と継続して事業を実施する予定である。